

中世寺院の風景

細川 涼一著

中世の寺に集う人々の姿を通じて、当時の人々がどのような考え方をし、どんな心情を抱いて暮らしていくのかをさぐる。登場するのは主として近畿地方の地域社会の寺。第一章では、米原町の番場蓮華寺を取り上げる。ここは足利尊氏に攻められた六波羅探題の四百三十人が集団切腹したことで知られるが、なぜこの寺とでと問い合わせ、同寺の由来と性格に答えを求める。京都・市原野小野寺などの小町伝説の由来を尋ねては、中世敗民による文化伝承を明らかにする。大原・寂光院では建礼門院の尼僧化の理由をさぐる。ほかに長岡京市・海印寺にみる極楽浄土の願いなど。著者は京都橘女子大教授。

(新曜社・二、五百〇〇円)